

島内地区「ジモトで座談会」記録

とき:2024年7月5日(金)19:00~20:40 ところ:島内公民館視聴覚室

参加者:臥雲市長、危機管理部 藤松部長、交通部 田原部長 島高松 高山(拓)町会長ほか 15名

1 趣旨

地区の特徴や課題を基にテーマを設定して、地区の代表者等の意見を市長が聴くと同時に、参加者とディスカッションをする地区別の広聴事業で、松本市と松本市町会連合会が共催で実施します。

今回は、参加者全員と時間内にディスカッションができることを前提に、定員を 20 人程度としましたので、島内地区では各町会の代表者を対象としました。

2 経過

島内地区町会長会としては、今回の座談会を実施するにあたり、懇談したい事項について事前に町会アンケートを行いました。町会長の個人の思いではなく、町会の役員会等で議論していただくことを前提としました。各町会で記載したアンケートを地区全体で集約し、これをもとに三役で当日の議論の流れを検討しました。

3 問題提起

ディスカッションを始める前に問題提起を地域づくりセンター 勝家が行いました。①令和 4 年度に実施した「市長とのこんだん会」、②令和 5 年度に実施した「河西部ブロック町会長懇談会」、③令和 5 年度末に実施した地域づくりセンター機能強化モデル事業の「防災モデル事業報告会」において出された課題や方向性などについてまとめを報告し、ディスカッションの呼び水としました。

4 ディスカッション

項目としては、事前に町会長に意向調査をした結果を踏まえて、当初以下の 5 項目を予定しました。

- ① 町会役員の担い手の確保について ② 町会未加入者や新旧住民について
③ コロナ後の町会運営について ④ 地域交通について ⑤ 個人情報について

結果的には時間の関係で①についてのやり取りのみで終了しました。

内容は以下のとおりです。

項目	町会長(からの意見・要望)	市長(回答)
地区・町会の役が多い	・お願いしないといけない役が多く、組の合併など(によってまわってくる頻度を下げること)も検討している。名前だけになってしまっている役がある。それでも選出しないといけない。	・警察の関係の役もあるが、市の各担当課で役をお願いしている。照会したところ、要綱によらないものもある。本当に必要?という検討もしていく。名前だけになってしまっているものがあれば、各町会でも検討していただいて声を寄せてもらえれば。 ・大きくとらえる部分と小さな単位での積み重ねでとらえる部分と整理する必要がある。
小規模町会の役員選出	・島内にも小規模町会はいくつかある。そこでは同じ世帯で何役も引き受けている。勤めている人には無理だし、80 歳以上の人に会議に出	・現役世代でも引き受けられる町会の業務に再編する必要はある。それに向けて 1 歩 1 歩近づけていきたい。

<p>引受け手の掘り起こし</p>	<p>でもらうのも忍びない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模町会存続のために、「合併」という手法が使われることがあるが、安易な合併は推奨してほしくない。 ・現役世代が定年延長などで年をとっても現役のままなので、引き受け手が先細り ・役員が引き受けられるのに引き受けていない層は一定程度いるのでは。その層に「あたる」には「つながり」が必要。 ・退職後、地域に戻っても、地域ではどんな人がいるか情報がない。出会えていないし、繋がれていない。情報がなくて困っている。その中で市職員の退職者には、積極的に担い手になっていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(町会の)規模が違いすぎるのに一律に役員を依頼する、というところには無理がある。統合や再編を引き受けられる体制づくりも必要だと思う。 ・職員には日ごろから地域活動の必要性については伝えている。市職員として退職した後も関わりたいと思える活動の構築に再編する必要がある。 ・町会役員ではないが、消防団の加入にあたって、免許取得の助成の枠を広げた。
<p>町会役員のメリット・インセンティブ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町会自身が役員手当を創設したり既存の手当を増やしてくれとは言出しにくい。市の方でガイドライン的なものとして、見返りとしてはこのくらいは妥当では？という示し方をしてもらえると、次に頼みやすい面はある。 ・報酬は適正にあるべき。草刈りボランティアをやってもらうのに「有償」にした。40～50代の男性の参加も得られたし、中学生も来てくれた。 ・(小規模な町会では)高齢者ばかりで、(草刈りなども)皆で協力してやるしかないので、報酬をインセンティブに、というわけにはなかなかいかない。 ・松本は「学都」を掲げている。教育環境を整備することは後継者を育てるうえでも大事。(市も、地区も、町会も)魅力を持っていないと、選んでもらえないし、居続けてはくれない。 ・市、職員、地域に横串が刺さっていないのでは？と思う。気持ちが前面に出ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報酬を含めたインセンティブについて考えることは必要 ・町会加入や町会役員のメリットや必要性をつたえることは大事。「町会に携わることが楽しい」ということをどういったところに発信し、伝えていけばよいか。「誰かの」または「地域の役に立ちたい」と思っている人は少なからずいる。 ・(「防災」や「ライドシェア」の支援などといった)役割や、報酬によって、関わる人のすそ野を広げていく。 ・地域の声を拾いながら、バス路線やダイヤの見直しを行っている。公共交通を含めた移動支援を地域の中でどうするか、という検討をしていかなければならないが、その中で「松本版ライドシェア」は担い手の確保を含めて議論を進めることになる。
<p>町会の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・隣組を活用する。それまでは町会費の徴収と広報などの配布ぐらいしか仕事がなかった隣組に役割を持たせて、地道に活動をしていくと人づくりにつながる。防災モデル事業で得られた 	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災」や「助け合い」という役割を隣組などで担ってもらう。また、移動支援として「ライドシェア」が注目されているが、これも担い手が実際に必要。身近な範囲で引き受けてもら

	<p>成果。「市民の役割」も当然ある。</p> <p>・「防災」や「助け合い」は関係ないという人はいない。雪かきなどの生活支援も、隣組で検討した災害時の安否確認・避難支援の中に入れてこませて担ってもらうことにした。</p>	<p>う。今後こうした具体的な支援の場面で地域の皆さんにお願いしていくことが出てくるので、担い手の掘り起こしを引き受けてもらうことになる。</p> <p>・共助の中で救える命を救う。その最小単位が隣組。「役に立ちたい」という気持ちを活かしながら「自分たちでできること」を見出していけると良い。</p>
市が持つ情報の提供	<p>・定住者が少ない町会だと、同じ町会でも情報がない分、運営が大変になる。ゴミをためるなどのトラブルがあった時にも、どんな人が住んでいるかわからないため、対応に苦慮した。市に言っても個人情報教えられない、という一点張りだったし、そういう人がいたときに、どこに相談すればよいかも教えてもらえなかった。</p>	<p>・隣組に替わるものをつくるのは難しい。市の持っている情報については、市が確認を取りながら、少しでも提供できるようにしていきたい。そうしたことはマンションへのアプローチにも共通している。</p>
職員配置	<p>・地域の仕事、実務のできる人の配置をお願いしたい。</p>	<p>・(市役所の中での)地域の困りごとを解決する仕事の比重を上げる。本庁で事務処理をする比率を下げることで地域に係る仕事の比重を上げていく。</p> <p>・地域づくりセンターを(人員面でも)充実させて携われる仕事のすそ野を広げていきたい。</p>
公民館建設補助	<p>・公民館の改築を予定している。こここのところの資材高、物価高によって建設費が高騰している。補助金の限度額を上げてもらいたい。</p>	<p>・資材高や燃料費の高騰など、公共事業に係る費用が高騰しており、公共事業の在り方を見直す必要があると考えている。</p>

5 市長回答まとめ

- ・ 町会の負担になっている役で機能していないものは見直す。
- ・ 市の業務の中で地域に関わる仕事の比重は上げていく。
- ・ 現役世代にでも受けてもらえる町会の役割の再編を検討する。
- ・ 役員のインセンティブとしての「手当」の研究はしていく。
- ・ 少しでも「役に立ちたい」と思っている人たちを見出していく必要がある。その中で「防災」や「移動支援」は実際に支援者を必要とする事柄なので、今後協力をお願いしたい。

6 町会連合会にて検討いただきたい事項(問題提起として)

- ① 現役世代でも携わることが可能な町会(長)業務について
- ② 町会役員への「手当」のガイドラインの作成について
- ③ 「地域の役に立ちたい」という人たちの掘り起こしについて

